# 1　はじめに

**要　　旨**

この文章は『城西大学教職課程センター』の論文等（研究論文，研究ノート，資料）レイアウトを説明した文章です。この文章自体が執筆要領を兼ねておりますので、文言を適宜削除して、このファイルをそのまま使用して論文を作成してください。

**キーワード**：教職課程、カリキュラム、教育方法

城西太郎† 城西花子††

†城西大学経営学部 ††城西大学教職課程センター

【研究論文・研究ノートなどの区分を明記】タイトル

　この文章は論文等（論文，研究ノート，資料）レイアウトを説明した文章です。この文章自体が執筆要領を兼ねています。このファイルをそのまま使用して論文を作成することを推奨します。本稿をよくお読みいただき，原稿を作成してください。

# 2　原稿について

　A4版を使用し，原則として投稿段階からMicrosoft社のWordで原稿を作成してください。作成の際には，必ずテンプレートファイルに基づき作成してください。

# 3　全体的なレイアウトについて

## 3.1　段組および字数・行数

　本文に先行する「ヘッダーの部分」に【論文の区分】論文等タイトル，著者氏名，要約を書いてください。

　なお、研究論文については、別紙のフォーマットに、以上の情報を書いてください。

## 3.2　文字サイズと字体

　文字サイズは，論文等タイトル(Title)は16ポイントのゴシック体，著者名(Author)は14ポイントの明朝体，要約(Abstract)およびキーワードは10ポイントの明朝体を用いてください。本文は10.5ポイントを用いてください。

　章のタイトルは「見出し１」設定（14ポイントのゴシック体の太字）、節のタイトルは「見出し２」設定は10ポイントのゴシック体太字で設定してください。項については「見出し３」の設定（10ポイントのゴシック体、中央揃え）にしてください。

　なお，Wordのテンプレートファイルではこれらの設定が事前にスタイルとして設定されています。

## 3.3　句読点

　句読点は、日本語では、句点として“。”読点として“、”をそれぞれ用いてください。英語では半角のピリオドと半角スペース，読点は半角のカンマ並びに半角スペースを使用してください。

# 4　図表について

## 4.1 図について

1段に収まる図については，本文中の適当な箇所に挿入し，図の下部に「図○: 図名」（○は図の一連番号）といったキャプションを10ポイントの明朝体，中央揃えで記載してください（図１）を参照。



図 1　小さな図の場合

　段をまたぐような大きな図を挿入する場合には，参照位置からなるべく近い後ろのページの上部または下部に図を配置します（図２）を参照。



図 2　大きな図

## 4.2 表について

　1段に収まる表については，本文中の適当な箇所に挿入し，表はその下部に「表○: 表名」（○は表の一連番号）といったキャプションを10ポイントの明朝体，中央寄せで記載してください。

表 1　小さな表の場合



大きな表の場合、段をまたぐような大きな表を挿入する場合には参照位置からなるべく近い後ろのページの上部または下部に表を配置し

ます。

表 2　大きな表

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 獲得数 | 平均 | 標準偏差 | 中央値 |
| xx |  |  |  |  |
| yyy |  |  |  |  |

## 4.3 引用について

　引用について本文中に他の文献からの引用を含める場合には，引用符「　　」を用いて記述してください。

　1文以上の長さの文章を引用する場合，その前後に各一行の空白をおいて，引用部分全体を全角2文字分字下げしてください。

## 4.4 注・文献について

### 4.4.1 注について

　原則、文献情報については、脚註は用いないでください。注にするものは、内容上の補足などに止めてください。本文の最後に「注」とタイトルを振って、スタイルで「見出し１」を設定してください。

### 4.4.2 文献リストの作り方

　以下、大学教育学会のテンプレートを基準にします。

＜単行本の場合＞

大学教育学会25年史編纂委員会編 (2004)『あたらしい教養教育をめざして』東信堂.

（順番に，著者名，発行年，書名(二重カギ括弧)，発行所）

Barkley, E. F. (2010). *Student engagement techniques: A handbook for college professors*. San Francisco, CA: Jossey-Bass.

（順番に，著者名，発行年，書名(イタリック体)，発行所(発行地)）

＜単行本の特定の章の場合＞

小笠原正明 (2004)「1990年代の大学および大学院改革」　絹川正吉・館昭編著『学士課程教育の改革』東信堂，pp.71-104.

（順番に，章の著者名，発行年，章の題目(一重カギ括弧)，収録されている単行本の編者名，書名(二重カギ括弧)，発行所，掲載ページ）

Entwistle, N., McCune, V., & Walker, P. (2010). Conceptions, styles, and approaches within higher education: Analytic abstractions and everyday experience. In R. J. Sternberg, & L. F. Zhang (Eds.), *Perspectives on thinking, learning, and cognitive styles* (pp.103-136). New York: Routledge.

（順番に，章の著者名，発行年，章の題目，収録されている単行本の編者名，書名(イタリック体)，掲載ページ，発行所(発行地)）

＜雑誌論文の場合＞

飯吉弘子 (2001)「戦後日本産業界の『能力観』と『人材養成』要求－経済団体の高等教育改革提言の歴史的分析－」『大学教育学会誌』23(2)，121-128.

（順番に，著者名，発行年，論文題目(一重カギ括弧)，雑誌名(二重カギ括弧)，巻(号)数，掲載ページ(ppは不要)．なお，複数の和文著者名は「・」でつなぐ）

Barr, R. B., & Tagg, J. (1995). From teaching to learning: A new paradigm for undergraduate education. *Change*, *27(*6), 12-25.

（順番に，著者名，発行年，論文題目，雑誌名(イタリック体)，巻(号)数(巻数はイタリック体)，掲載ページ(ppは不要)）

＜翻訳書の場合＞

Wiggins, G., & McTighe, J. (2005). *Understanding by design (Expanded 2nd ed.)*. Alexandria, VA: Association for Supervision and Curriculum Development. G・ウィギンズ，J・マクタイ (西岡加名恵訳) (2012)『理解をもたらすカリキュラム設計－「逆向き設計」の理論と方法－』日本標準.

（順番に，原著者名，発行年，書名(イタリック体)，発行所(発行地)，原著者名(カナ名)，訳者名，翻訳書発行年，翻訳書名，翻訳書の発行所）

＜インターネットからの引用の場合＞

中央教育審議会 (2012)『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて－生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ－(答申)』(http://www.mext.go.jp/b\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm) (2016年3月30日)

（順番に，著者名，ページのタイトル，URL，引用者の最新アクセス日）

# 謝辞

　本ガイドを作成するにあたり、以下のサイトを参考にしました。記して感謝申し上げます。

・大学教育学会誌原稿テンプレート

http://daigakukyoiku-gakkai.org/site/journal/templates/

・東京大学大学院生涯学習基盤経営コース「コース紀要執筆要項」

https://llls.p.u-tokyo.ac.jp

・